

# 手探りのあし

□□3□□

日本最西端の島・与那国を否決した。「離島のその島の元日。国内で最も遅い。また離島に合併のメリッ初日の出を迎えて間もなく、ダイビングスーツ姿の荒島喜八郎(五七)は、紺碧の海にいた。

正月休みに本土から島を訪れる観光客の目当ての一つは、島の沖に眠る「海底遺跡」。宮殿のような巨大な階段や水路…。神秘的なダイビングスポットは、一九八六年に荒島が発見した。島でホテルを経営する荒島は一日に何度も客を船で「遺跡」に案内する。

一島一町の沖縄県与那国町は昨年十月、中学生以上の住民投票で、石垣市や竹富町との離島同士の合併

## 台湾から集客目指し

人口流出や高齢化が深刻な離島には市町村合併の波が押し寄せている。二〇〇三年四月から〇四年十二月末までに、離島振興法の指定地域となっている離島または離島を含む市町村数は全国で四十二減り、百八十一となった。特に九州では急ピッチで合併が進んでおり、これまでに長崎県の対馬市、壱岐市、五島市、鹿児島県薩摩川内市などが誕生。市町村数は八十五から六十五になった。四日には、長崎県伊王島町などが長崎市と合併。今月末には六十市町村となる見込みだ。

離島の多い鹿児島、長崎両県では、

### 人口半減、進む高齢化

離島人口はピーク時から半減。四人に一人以上が六十五歳以上と高齢化も深刻だ。

離島では、農林水産業の不振で、公共事業が主産業になっているところも少なくない。しかし、公共事業削減などが自治体財政を直撃。(財政優遇措置がある)合併に駆り立てられる自治体が急増している。(全国離島振興協議会)という。

合併を選択せずに生き残りを目指す自治体も。鹿児島県与論町は全国から参加する「ヨロシマンソン大会」や島の伝統文化保存に力を入れ、観光振興を軸に自立を目指している。

### 離島の選択

ラ機に代わったのをきつ無に近かったが、観光資源と与那国を訪れる人は増え、かけに、島に戻った。妻家は豊富だった。「国境の島」自立はきつとまうまくいく。

の旅館をホテルに改装。島や在来種の「与那国馬」を荒島の夢は膨らむ。

で初めてのダイビングショップも開いた。「島に戻り」の魅力をアピール。近年「台湾との交流を視野に、職口もない島を、観光で発掘させよう」と決意したんで、有名になり、観光客は年間三万人になった。

当時、島に観光産業は皆「台湾」と高速船で結ば

### 自治激動 地域の自立目指して

「台湾との交流を視野に、職口もない島を、観光で発掘させよう」と決意したんで、有名になり、観光客は年間三万人になった。

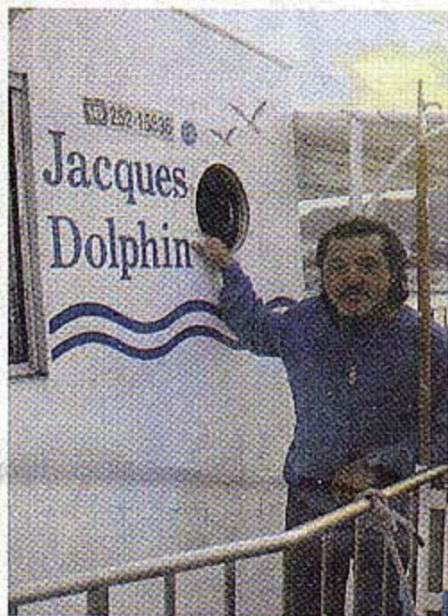
当時、島に観光産業は皆「台湾」と高速船で結ば

減は一層進める」

昨年、町内の公民館長

「単独」を決めた住民投票に、荒島ら町民約三十人票後、町長の尾辻吉兼(五七)が集まった。町の「自立へは、助役と収入役を置かぬのビジョン」策定推進協議会、町長、町議員の報酬・会のメンバーだ。酒を酌み給与カットなどの施策を交わしながら島の将来を語り出した。町議会も定数削減を合意。自然豊かな島を、一から八に削減。尾辻「みんなで幸せの島にしようは「生き残り」に向け町一丸じゃないか」。熱い思いが

(文中敬称略)



「海底遺跡」を船上から見ることができるグラスボートに立つ荒島さん。観光客を増やそうと導入した

# 海底ロマン 謎の「遺跡」に遭遇



## 旅のヒント

沖繩・那覇空港から琉球エアームィ  
ニーター(RAC)の直行便が週四回、  
火、水、金、日曜に出ており、約一時  
間半で与那国空港に着く。直行便がな  
い場合は石垣空港を経由し、RACが  
日本トランスオーシャン航空の与那国  
空港行きに乗り継ぐ。  
この時期の与那国島沖はハンマーヘ  
ッドシャークのほか、イルカ、イソマ  
グロなども回遊しており、海底遺跡見  
学とセットでダイビングを楽しめる。

百三十メートル、高さ約二十五  
メートルの巨大な岩塊。宮殿を  
思わせる人工的な構造が  
「遺跡か、自然の造形物  
か」の学術論争に発展。神  
秘的な海底ロマンは全国  
の話題となり、島を訪れ  
る観光客が増え続ける。  
スタッフの誘導で岩を  
アーチ状に積み重ねた  
「城門」をめぐると、高  
島では一般観光客が海  
底遺跡を見学できる水中  
観光船も毎日周航。東京  
都府中市の小西利明さん  
(51)は初めて訪れた三  
年前に船から見た遺跡に  
魅せられ、ダイバーの認  
定を取得。潜るのは今年  
で二回目だが、「冬の与  
那国はハンマーヘッドシ  
ャークにも遭遇できるの  
で最高」と目を輝かせる。

湿った南の風が紺げきの  
海面を波立たせ吹き抜  
ける。日本最西端の島、  
与那国(沖縄県)の南端  
に突き出た新川鼻沖。真  
冬だが気温は二三度、初  
夏のような暖かさだ。  
「海底遺跡はこの真下  
です。水温は気温とほぼ  
同じ」。クルーザー  
のスタッフの掛け声にダ  
イバーたちが次々に海に  
飛び込み、一気に深さ十  
六メートルの海底へ。海の中は  
紫紺に澄み、透明度は約  
三十メートル。カラフルな魚の  
群れやサンゴが手に取る  
ように見える。

## 新冬の風物詩

3

## 寒さ無縁ダイバー天国

(与那国島)



紫紺の海底に「遺跡」が現れる (沖縄・与那国島)

ダイバー天国になった。きつ  
たダイバーの新寵(あらた  
発見した海底遺跡だ。東  
かけは一九八六年に地元  
喜八郎さん(57)が西約二百五十  
メートル、南北約

凍える列島とは別世界  
が広がる与那国島。ここ  
十年で冬もにぎわうダイ

## 【観光リゾート局長との答弁です】

観光リゾート局長答弁  
平成17年第1回沖縄県議会(一般質問)

質問者 辻野ヒロ子 議員  
(商工労働部観光企画課 : 2763)

4 離島振興について  
(質問要旨)4-(2)-ア

県として、現地視察で徹底調査し研究の必要性を感じたが、見解を伺います。

(海底遺跡の徹底調査と研究の必要性について)

(答)  
観光リゾート局においては、平成12年度と13年度において、「与那国海底観光資源調査」を実施し、その利活用方法、広報宣伝等に関する検討を行いました。

その後、沖縄観光の情報発信システムである「真南風プラス」で海底観光資源に関する情報を広く発信しているほか、沖縄デジタルアーカイブ「ワンダー沖縄」で30分の映像コンテンツを制作し、与那国の観光資源と言

24

うに止まらず、本県の重要な観光資源として、情報発信に努めております。

最近の与那国町への観光客数は増加傾向にありますので、海底観光資源は、与那国観光の貴重な財産として活用されているものと考えております。

今後のさらなる活用につきましては、与那国町や地元観光関連業界の活用プランや主体的な取り組みを踏まえ、県としても協力してまいりたいと考えております。

25

## 【教育長との答弁です】

教育長答弁  
平成17年第1回沖縄県議会(一般質問)

質問者 辻野ヒロ子 議員  
(教育庁文化課 : 2731)

4 離島振興について  
(質問要旨)4-(2)-イ

与那国島海底遺跡の遺跡認定の可否と現状保護について

(遺跡認定の可否と現状保護について)

(答)  
県教育委員会が「遺跡」として認定するためには、明確にその当時の人たちが関わった痕跡を示す資料が提示される必要があります。

いわゆる「与那国島海底遺跡」につきましては、現時点では、提出された資料が十分ではなく、認定は難しいものと考えています。

今後、新たな資料の追加を踏まえて、認定の可否について検討していきたいと考えています。

26

また、遺跡として認定された場所の保護については、文化財保護法や文化財保護条例により対応していくこととなりますが、いわゆる「与那国島海底遺跡」の現状保護については、与那国町教育委員会や関係機関との調整を図りながら、考えていきたいと思っております。

27



四、離島復興について  
内閣府に設置された「離島活性化調査検討会」(通称・美(美)島会)と連携し、離島地域の活性化を担う人材の育成や各離島の地域資源やアイデアを生かした産業育成に取り組むとの離島復興に力強い思いを感じた。

〔離島活性化について〕  
ア：美(美)島会調査事業と連携した本県の離島活性化について、何(何)も主眼をおいて進捗しているのか、また、「沖縄離島活性化特別事業」の内容について、新たに盛り込まれた事業についても具体的に示して下さい。

(離島復興局長答弁)  
県の離島活性化施策は、県土のほぼ全ての離島をカバーしている。

①自治的発展のための基盤整備  
②離島以外の地域との格差の修正  
③地域の優位を生かした産業の振興を主眼として、一体的には森林水産物や観光リゾート産業の振興、交通運送体系の整備などに取組んでいる。

次へ、「沖縄離島活性化特別事業」は、平成十七年度に新たに創設された事業で、その内容は、①離島の活性化を担う人材の育成や専門家の派遣  
②安心して離島に住むための環境等の調査  
③各離島の具体的なアイデアや主体的な取り組みに対する支援  
④観光客の利便性、快適性の向上を図る観光案内標識等の整備

とされている。また、併せて、離島における通信の高速化・大容量化を図る「離島ブロードバンド環境整備事業」が新たに創設されている。

イ：ワンギンチームの今後の取り組みについて、また、大半が単年度事業となっているが、平成十八年度も継続して国庫費要求にむけた事業を推進していくことが出来るのか伺いたい。

(離島復興局長答弁)  
離島地域は、三位一体の改革の影響もあって厳しい状況にあり、離島地域の活性化を図るためには、継続的な取り組みが重要であると認識している。このため県は、離島市町村と連携を図りつつ、引き続き離島活性化ワンギンチームにおいて離島活性化の検討に取り組んでいく。また、平成十八年度国庫費要求に向けた内閣府に対する要望についても積極的に検討していく考えである。

〔口と那国島海産物取扱について〕  
昨年八月にクラスポートで複製し、去る二月二十日は常任委員会による現地視察を行った。半漁水型の船は立体感があり、ダイナミックな海産物の様子を目的の当りにして、感動的であった。一九八六年に「漂波ポイント」というダイビングスポットを開発し、一九九二年以来、琉球大学海産物調査団の調査が進み、一九九八年には、人工物であるとの報告がなされている。それ以来、ダイビングのみならず国内から

研究者や、観光客が大勢来島するようになり、離島の活性化をはじめ、大きな経済効果をもたらしている。また、常任委員会に地元や、研究者から調査資料をまとめて陳情も出されておき、継続事業となっている。

ア：県として、現地視察で徹底調査し研究の必要性を感じたが、いかんか見解を伺いたい。

(観光リゾート局長答弁)  
観光リゾート局においては、平成十二年度と三年度において、「与那国海産物調査開発調査」を実施し、その活用方法、広報宣伝等に関する



県議会の窓から

も努力して取り組んでいく。また、調査資料に基づき「検討委員会」を設置し、調査結果の活用について、また、「水中文化遺産保護条例」の制定などについて、議論を進める必要があると考えられている。

(教育長答弁)  
県教育委員会が「遺跡」として認定するためには、明確にその当時の人たちが関わった痕跡を示す資料が提示される必要がある。いわゆる「与那国海産物調査」については、現時点では、提出された資料が十分でなく、認定は難しいものと考えている。今後、新たな

検討を行った。その後、沖縄観光の情報発信システムである「真実の海」で海産物観光に関する情報を広く発信しているほか、沖縄観光庁「カンパニー」や「沖繩」で三千人の映像コンテンツを製作し、与那国の観光資源について、本県の重要な観光資源として、情報発信を進めている。最近の与那国町の観光客数は増加傾向にあるので、海底観光資源は与那国観光の重要な財源として活用されているものと考えている。今後どのような活用については、与那国町や地元観光関連業界の活用方法を主体的な取り組みを進め、県として

急ピッチで進められている。これからは、住民福祉の向上にどのように生かしていくか、各市町村でも具体的な議論が必要となる。「通信コスト低減化支援事業」については、その実施に際しての条件緩和および宮古・八重山地域の本地並みの環境整備も重要なことと考えられている。

本県は、「沖縄県情報産業ハイウェイ」を利用し低価格回線を提供すること、事業の誘致などによる県内産業の振興・活性化については、県内雇用の拡大を進めており、県が都市圏への通信回線を確保し、無料で企業へ提供することにより、県内の企業誘致が図れることとなる。また、現在、東京APから沖縄本島の那覇、中部、北部地域の三方所、設置され、沖縄本県、宮古・八重山の県内回線確保することにより、先導地区における通信環境(通信コスト)は、沖縄本県と同等となる。離島復興のために、大いに役に立ちたいと考えている。

ア：公費負担における選定条件の緩和(三歳で二十人以上(パートを含む)の雇用となること)が、ハードルを上げて入り口を狭げられないか伺いたい。

(県労働部長答弁)  
通信コスト低減化支援事業は、県内に立地する情報通信関連企業に対し

て、低価格の通信回線を提供することにより、県内産業の振興、集積および県内雇用の拡大を図ることを目指している。従って、雇用拡大という観点から原則として二十人以上の条件を付しているが、二人を下回る雇用であっても、専門的知識を有する人材を雇用する場合は、県内の情報通信産業の振興・集積に寄与すると判断される場合は、支援の対象となる。

イ：「沖縄県情報産業ハイウェイ」AP(フックセクター)の宮古・八重山地域の設置を強くお願いし見解を伺いたい。

(県労働部長答弁)  
五、旧軍飛行場用地問題について  
本県在職中、旧日本軍に飛行場用地として土地を没収された自治体の多数が、個人補償を求めた中で、「調査検討委員会」が個人補償の解決を提案し、県もその方向で取り組んでいる。方針を示している事に対し、反響の声が相次いでおり、特に、新石垣空港の予定地内に土地を持つ地権者がおり、新空港用地提供の条件に旧軍飛行場用地の解決も挙げられている。このような状況を踏まえ、旧軍飛行場用地問題は、各地市長や、関係首長の見解も十分聞き、解決促進に取り組みすることについて伺う。

〔県は個人補償による解決を求めた方針を固めているが、この結論に至った経緯と理由、個人補償の内容は具体的に何を求めているのか伺いたい。〕

(知事公室長答弁)  
個人補償は、各市町村や旧軍飛行場用地に解決を求めたいとする考えである。県は、「個人補償は法的根拠がないこと」と、「個人補償では解決の自発が立たないこと」

を踏まえて、県として進捗している。また、県内において、旧軍飛行場用地関係者に、老人福祉事業等の民生事業、人材育成等の特性を生かした観光事業等の推進が図られるよう、関係各所と連携して取り組んでいく。また、県内において、旧軍飛行場用地関係者に、老人福祉事業等の民生事業、人材育成等の特性を生かした観光事業等の推進が図られるよう、関係各所と連携して取り組んでいく。

消費者情報  
コーナー

運動アシストの県内販売数は三万三千台で、全体の国内生産は九・九万台(四・四年)生産台数が増加して、七年度は七万七千台、八年度は八万四千台、現在七

日新聞

「問題解決には県と各  
地主会、市町村との連  
携、協議が必要だといっ  
ているが、具体的にどの  
ような協議を行うのか伺  
いたい。」

〈知事公室長答弁〉

この問題については、  
地主会の間でもさまざま  
な意見や要望があり、特  
に「旧軍飛行場地主会連  
合会」に加盟する地主か  
らは、個人補償以外に解  
決策はないとの強い要望  
がある。しかしながら、  
個人補償での解決を要求  
するものは、県議会や市  
町村議会を含め、県民の  
総意として国に沖繩振興  
計画に位置づけて解決を  
図るよう要望したことが  
矛盾する点になるもの  
と考える。このようにこ  
とから、県政策会議にお  
いて、沖繩振興計画に位  
置づけられた背景や委託  
調査報告書も参考にしな  
がら総合的に検討した結  
果県は団体補償を解決策  
として推進することを基  
本方向として確認した。

この考え方については、  
関係市町村や各地主会へ  
説明したところであり、  
今後とも、各地主会とも  
協議を行い、理解を得た  
いと考えている。

「石垣市議会は、個人  
補償を求める地主会の意  
向を受け、特別委員会の  
設置や、決議を行うなど  
実現に向けて取り組んで  
いる。このような状況に  
対して、県はどのように  
受け止め、対処する考え  
なのか。」

〈知事公室長答弁〉

石垣市議会において、  
旧軍飛行場用地問題に関  
する意見書を探検したこ  
とや特別委員会が設置さ  
れたことは承知してい  
る。当該特別委員会は、



県議会の窓から

③

沖繩県議会議員 辻野 ヒロ子

「IDB年次総  
会」を開催、いち早く人  
事異動を行い、強力な体  
制の下で、大会の成功に  
向けて取り組んでおられ  
ることに敬意を表しま  
す。

八重山圏域は、多くの  
離島を抱えており、人口  
推移が年間約三百人増の  
五万三千人余り、住民登  
録をしていない方もかな  
りの数だといわれている。  
また、観光客入域数  
も年間約四万五千人増の  
七十一万人を突破した。  
これからも、新石垣空港  
建設に向けて、かなりの  
増加が見込まれ、このよ  
うな状況の中で、事件・  
事故の増加も懸念され  
る。そこで、安全で安心  
なまちづくりの確立のた  
めに、次の事について伺  
いたい。

去る二月二十一日、県  
警本部の警察署長会議  
で、県内十四警察署の中  
から、二〇〇四年の年間  
成績優秀な警察署に贈ら  
れる賞を八重山署が「生  
活安全」「刑事」「地域」の  
三部門を制し、総合二位  
の「県警本部長賞」を受  
賞した。国境の島や、多  
くの離島を抱え、広範囲  
にわたり、治安維持のた  
めに、いろいろな知恵を  
出し合い、行政、地域と  
一緒になって頑張ってい  
る姿に本当に頭が下がり  
ます。今後とも、安全で  
安心なまちづくりのため  
に、尽力頂きたいと思  
います。また、この度、念  
願の「八重山警察署の新  
築移転」が決まり、喜び  
に湧いております。

八重山圏域は、離  
島が多く人口や観光客の  
増加に伴って、事件・事  
故も増えている状況にあ  
ります。警察官の増員につ  
いての見解を伺いたい。

現在の八重山署が市内  
の美崎町で、夜になると  
賑やかな飲食店街にあ  
り、事件・事故が最も発  
生している地域で、警察  
署の存在は大きなもので  
ある。移転後の不安が、  
地域住民の声として上が  
っている。

や徒歩によるきめ細かな  
パトロール等により、安  
全確保に努めてまいりた  
いと考えている。  
おわりに  
再質問では、「旧軍飛  
行場用地問題」につい  
て、個人補償を求める地  
主会や、市町村との連  
携、協議がもっと必要で  
あり、問題解決に強力に  
取り組むべきであると訴  
えた。また、「県立八重  
山病院の安定的医師の確  
保」については、「医師  
人材確保協議機関」を、  
早急に設置することを確  
認した。

石垣市における旧軍飛行  
場用地問題等について調  
査研究し、その結果を議  
会に報告するものとなっ  
ていると聞いているの  
で、今後、県に資料提供  
等の依頼があればできる  
限り対応したいと考えて  
いる。

六、安全で安心なまち  
づくりの体制強化につい  
て  
三浦県警本部長をはじめ  
、署員の皆様におかれ  
ましては、今年四月に開

見直しを行っていること  
である。なお、近年の  
増大する警察事象への対  
応等警察署の持つ役割の  
重要性等を勘案し、全警  
察署の定員を増員してき  
ており、平成十七年度も  
八重山警察署を含め増強  
する予定としている。こ  
れまで増員された要員に  
つきましては、交番、パ  
トカー等に配置してのバ  
トロール強化、少年犯罪  
等への対応、安全・安心

八重山警察署所在地や  
その周辺にある美崎町の  
飲食店につきましては、  
現在、大川交番が管轄し  
ている。大川交番管轄地  
域における事件事故の発  
生状況やその負担状況、  
交番からの距離等の観点  
からも、八重山警察署の  
新築移転後においても、  
現在の体制で十分対応で  
きるものと認識している  
ことと伺います。今後と  
も、皆様の指導をよろ  
しくお願ひ申し上げ報告  
を致します。

本定例会は、二月十五  
日三月二十九日まで、  
四十三日間の長い会期  
で代表質問、一般質問  
の後、新年度事業・予算  
の審議が行われる。三位  
一体改革で、県と各自治  
体も厳しい行政改革の中  
で新年度を迎えること  
になり、私も、幸いに、予  
算特別委員会のメンバー  
として、県政に係る予算  
書の数字とにあらためてこ  
しながら、日夜頑張ってい  
ることと伺います。今後と  
も、皆様の指導をよろ  
しくお願ひ申し上げ報告  
を致します。

本定例会は、二月十五  
日三月二十九日まで、  
四十三日間の長い会期  
で代表質問、一般質問  
の後、新年度事業・予算  
の審議が行われる。三位  
一体改革で、県と各自治  
体も厳しい行政改革の中  
で新年度を迎えること  
になり、私も、幸いに、予  
算特別委員会のメンバー  
として、県政に係る予算  
書の数字とにあらためてこ  
しながら、日夜頑張ってい  
ることと伺います。今後と  
も、皆様の指導をよろ  
しくお願ひ申し上げ報告  
を致します。

深い日差しの中、のんびりと過ごす和歌山の群れ。あとなしき牧場で、観光客が近づいても逃げない。島の西端・西(1)の海岸で

# ニッポンを歩こう



43

与那国島 (沖縄県)



## 本土はるか 国境の島

【本島】 与那国島は、沖縄県に属する島で、日本列島の最南端に位置する。島の面積は約1,000平方キロメートルで、人口は約1,000人である。島の地形は、石灰岩の断崖絶壁が特徴的で、美しい自然景観を誇る。島の西端には、高さ約100メートルの灯台が立ち、島の象徴となっている。島の東側には、美しいビーチと珊瑚礁があり、観光客に人気がある。島の文化は、琉球文化と独自の島文化が融合しており、伝統的な行事や祭りが行われる。島の産業は、農業と観光業が中心で、新鮮な野菜や果物を産出している。島の交通は、定期船と飛行機によるアクセスが可能で、島の魅力を堪能できる。

【西島】 与那国島の西端に位置する島で、島の面積は約1,000平方キロメートルで、人口は約1,000人である。島の地形は、石灰岩の断崖絶壁が特徴的で、美しい自然景観を誇る。島の西端には、高さ約100メートルの灯台が立ち、島の象徴となっている。島の東側には、美しいビーチと珊瑚礁があり、観光客に人気がある。島の文化は、琉球文化と独自の島文化が融合しており、伝統的な行事や祭りが行われる。島の産業は、農業と観光業が中心で、新鮮な野菜や果物を産出している。島の交通は、定期船と飛行機によるアクセスが可能で、島の魅力を堪能できる。

【東島】 与那国島の東端に位置する島で、島の面積は約1,000平方キロメートルで、人口は約1,000人である。島の地形は、石灰岩の断崖絶壁が特徴的で、美しい自然景観を誇る。島の西端には、高さ約100メートルの灯台が立ち、島の象徴となっている。島の東側には、美しいビーチと珊瑚礁があり、観光客に人気がある。島の文化は、琉球文化と独自の島文化が融合しており、伝統的な行事や祭りが行われる。島の産業は、農業と観光業が中心で、新鮮な野菜や果物を産出している。島の交通は、定期船と飛行機によるアクセスが可能で、島の魅力を堪能できる。

(第3種郵便物認可)

# ウルマの風

写真・文 松田建一

28

与那国島の人々は一年を大きく夏と冬の二季に分ける。旧暦の四月〜九月が夏、十月〜三月が冬である。

本土の人間にとって、年平均気温が二三・四度の与那国は一年中夏の感が強い。しかし、「海の中には四季がある。四季それぞれの魚が見られる」と与那国に生まれ育ったベテランダイバーの新嵩喜八郎さん(五七)は言う。

与那国の海の透明度は世界に誇れ、船でほんの三分の海中で素晴らしい景観が眺められる。縦十八呎、横十呎のミドリサンゴの群落も水深三十五呎の所にあり、神秘的な故郷の海を是非とも全国のダイバーに見せてやりたい。

願わくば、それが生活の糧と島起こしに繋がればと考へ、新嵩さんは昭和六十年に与那国初のダイビング・ショップ「サーウエスヨナグニ」

## 平成のウニトラ

を立ち上げた。ダイビング・ポイントを開拓中、彼が昭和六十一年に発見・命名した「遺跡ポイント」は世界的注目を浴びている。

「遺跡ポイント」とは島の南端の新川鼻から約百呎沖の、水深二十五呎にある、底部が東西約二百五十呎、南北百五十呎、高さ二十六呎の、神殿によく似た構築物である。多くのテラスや階段、回廊、側溝など、人工的要素が濃厚だ。

正に「海底遺跡」と呼ぶに相応しく、木村政昭教授を团长とする琉球大学海底調査団によると、「遺跡」に付着した貝殻やサンゴ化石は六千年以前のもので、地球気温の温暖化に伴う四十呎前後の海面上昇によって水没したと推測されるといふ。陸上にしか



できない海底鍾乳洞も近くの海域で次々に発見され、調査団の水没説を証拠立てている。

今や「海底遺跡」はヨナグニサン(世界最大の蛾)、ヨナグニナゲニウマに次ぐ与那国観光の「自然の美しさ、情けの島」の大きな目玉となり、年間千人以上のダイバーが訪れる。一般客にも与那国の海の妙を堪能できるよう、グラスボート

だけでは客は呼べない。客を地であると同時に、周辺海域もてなす設備とロマンが大切だ」と新嵩さんは力説し、ホテル「入り船」を経営する傍ら、観光協会副会長として島の経済の活性化に全力を注いでいる。

平成十五年に与那国を訪れた観光客は約三万二千人、その数は右肩上がりである。観光客が島の素朴な人情を傷つけることは必至だが、「生き延びるためには、過去を振り返っても、過去を引き摺ってはいけない」と新嵩さんは語り、時代の必然の趨勢を深く受け入れ、そこから物心両面における活路を懸命に見出す姿勢を愛郷心深く切言する。

尖閣諸島に領有権主張のミ二灯台を立てるため、新嵩さんが右翼団体を船で諸島まで運んだのも強烈な愛郷心からだ。尖閣諸島は海鳥類の繁殖地。新嵩喜八郎さん(比川集落前浜)

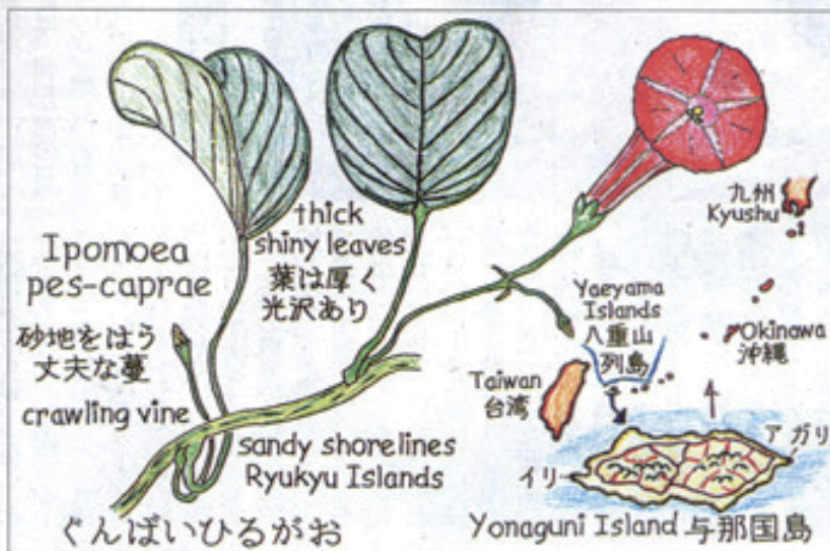
「領有権を奪われると、何はさて置き、沖縄漁民が大切な漁場を失う。子子孫孫のためにも尖閣諸島を死守する」と新嵩さんは熱弁する。私はその殺気立つ愛郷心に平成のウニトラを見た。

(写真家・ルポルタージュ作家、幡多郡三原村在住)



# 千葉

## ■ 旅先でもウォーキング 与那国の風物は 発見がいっぱい



ぼくにとって、カントリーウォーキングは日常生活にかかせない楽しみです。習慣として身に付けてしまえば、旅先でも楽しめます。

今年の夏、ぼくは日本最西の島、与那国島に行ってきた。旅の目的は、海に潜って、美しいさんご礁や世界的に有名な「海底遺跡」の取材をするつもりだったが、合間に、島のウォー



キングにも挑戦しました。与那国のカントリーサイドは、いつもの関東の里山とはぜんぜん違います。サトウキビ畑や牧草地が広がり、放し飼いの大きなウマやウシが道に堂々と出てきます。さすがに台湾に近い亜熱帯の島で、今までみたことのない植物とも出会えます。例えば、海岸沿いには、アダンというジャングルにあるよ

うな植物が密集して生い茂っています。砂地で見つけたゲンバヒルガオというヒルガオ科のつる植物は、ティープピンク色の大きな花をつけます。葉っぱは、潮風に耐えるためにぶ厚く、まるで多肉植物のようです。

民俗学的な発見も次々ありました。小さな島はやはり、木材資源に限りがあって、民家の扉は見事な石積みでできています。そして、集落の丁字路や行き止まりには、必ず「石敢當」があります。民俗資料館で尋ねると、これは伝統的な魔よけの一種とのこと。集落の外側に広がる墓地にも驚きました。

亀甲形のお墓は大きく、岩盤そのものから直接切り出したものもあります。

与那国島の主要道路は海岸線に沿っていますが、奥地の丘陵には狭い林道や農道があり、半日程度の調べ歩きにぴったりです。世界最大の蛾のヨナグニサンをはじめ、島の自然を紹介する「アヤミハビル館」もありました。また、サンアイ・イソバという女性が大きな草履を編んで海に渡し、島に巨人がいると思われ、海賊を追い払ったという伝説にまつわる史跡なども数多くあります。

(ケビン・シヨート―東京情報大教授、イラストも)

## ■ 戸定邸の庭は別世界



世界に迷いこんだようだった。よく晴れた日は、富士山が見えるそう。

戸定邸＝写真＝は、徳川慶喜の実弟で、幻の将軍「徳川昭武」の邸宅。一八八四年に建設された。木造草屋一部二階建て(七百十八平方尺)。大名の下屋敷の面影を色濃く伝える近代和風建築として知られ、庭園

ユニアは、ブラジルを破るなど予選リーグを2勝1分、グループ1位で通過。しかし、決勝トーナメント1回戦で、優勝候補筆頭の南アフリカと対戦し、小学生離れした身体能力と個人技の前に0-1で敗れた。サイドからドリブル突破でチャンスをつくったFW菊地健也選手(12)が選出された。ピッチ外でも、各国の子どもたちとの親善が図られ、将来のレイソルを担う子どもたちによつ

# 「水中遺産」登録の可能性は大

与那国海底遺跡

## 本土の作家らが魅力語る

グラハム・ハンコック氏 「失われた文明の一つ」

【那覇】歴史ロマンを語る……いまよみがえる与那国海底遺跡」と題するパネルディスカッションが十二日、那覇市内であった。十年間研究を続ける木村政昭琉球大学教授が「ユネスコの水中文化遺産登録の見通しは明るい」と報告したほか、パネリストが「夢みただけで済む海底遺跡はほかにない。非常貴重だ」と語るだけでなく「妄想が膨らむ」と魅力を語った。「神の剣印」「神々の指紋」の著書で知られるグラハム・ハンコック氏は記念講演で「人間の手によるもの以外に考えられない」と指摘、失われた文明の一つだと強調した。



荒俣宏、木村政昭、ゆたかはじめ（右から）の3氏が「与那国島海底遺跡」のロマンを語り合ったパネルディスカッション＝12日、沖縄ハーバービューホテル

沖縄と本土の経済人による協力交流の場となっている沖縄懇話会の主催。三上智恵キャスター（琉球朝日放送）を司会に木村教授のほか、作家の荒俣宏氏、エッセイストのゆたかはじめ氏が出席した。

木村氏は「遺跡」がある海底が二万年前は陸だったと説明した上で遺跡や石積みなどを例に「このような構造物は自然にできるものではない」と説明、石板や彫刻を発見したことを報告した。ユネスコで検討されているという水中文化遺産について「要領を受け資料を提出した。見直しは明るい」と語った。

「初めてみたときアツと驚いた」という荒俣氏は「二万二千年前の遺跡が残っている。どういった文明に位置づけられるのか。妄想が膨らむ」と古代文明に思いをよませ、ゆたかはじめは「人でも自然でも、みていておもしろい。これを観光に生かさない手はない。海中展望台やガラスのトンネルを

つづれないか」と夢をふ

「日の丸」踏んで民兵行進  
サマワでサドル師派

【サマワ12日時事】陸上自衛隊が駐留するイラク南部サマワで十日、イラム教シーア派の反米指導者サドル師派の民兵「マハディ軍」とその支持者約千人が式典を開き、路上に大きく描かれた日の丸やイスラエル国旗を踏破するもので、毎年行われている。ムハンナ州の警察本部長らが参列した。昨年はい日の丸の上を踏み付ける光景は見られず、警察が反目姿勢を強めている実態が浮き彫りになった。

くめさせた。

記念講演でハンコック氏は「失われた文明は世界中にある」と持論を展開し、失われた理由を永河期後の海面上昇にあると説明。「失われた文明は人類の過去を探る上で重要だ」と強調した。

### 都市農村交流施設 「活用不十分」

農水省に改善勧告

地方自治体に対する農水省の都市農村交流関連補助事業をめぐる、都市との交流目的が整備された施設でありながら、利用者の70%以上を地元住民が占めるなど、都市と農村の交流に活用されていない例があることが、

省 務 総

十三日付で農務省が発表した行政評価・監視結果で分かった。同省は適正な措置を講じるよう、農水省に勧告した。

調査対象となったのは、農水省の山村・都市交流促進事業などで整備された二十都道府県の九十

### 今年の

ご成城、アイチャ  
八万博に、愛のない  
凶悪事件も……。今年の  
世相を漢字二文字で表  
す「今年の漢字」は

(9) 2005年(平成17年) 12月14日(水曜日)

# 水中文化遺産条例制定に前向き

## 12月与那国町議会一般質問 海底遺跡の利活用で



我那覇武氏



大嵩長史氏

【与那国】開会中の十二月定例町議会(東浜功一議長)は十三日、一般質問初日を行い、大嵩長史氏(無)と我那覇武氏(無)の二人が登壇した。

その中で、大嵩氏は九月議会で当局が撤回した大型ホテルの町有地賃貸契約案について、進捗よく状況をたじた。これに対し外間守吉町長は「農振除外や周辺住民への説明、土地利用計画の整備など条件整備が必要。今後、条件整備をきちんとした上で、議会と協議していきたい」と答え、再提案に時間がかかる見通しを示した。

当局は「自然保護条例に基づいて、条例を制定できるか検討したい」と東浜安伸産業振興課長、「行政側ともタイアップしながら、条例案について話し合っていきたい」と(田盛真吉教育長)と答弁した。外間町長は「文化遺産として、町の財産として残していくことには慎重を期さないといけないが、条例案や海底遺跡について勉強しながら、前向きに検討していきたい」と述べた。

また、大嵩、我那覇両氏は祖納地区の農業集落排水事業について、住民説明会のあり方や最終処分施設位置選定の過程について取り上げた。譜久嶺弘幸まちづくり課長は「説明会は事業採択前と採択後に実施。防災無線で参加を呼びかけたが、参加者は少なかった。事業実施期間中、要望があれば、説明会を再度開催したい」と答えた。

また、最終処分施設の位置選定については「説明会来場者にアンケートを実施。個別アンケートも実施するとともに、他市町村の状況などを検討した結果、集落から百メートル離れた場所を選定した」と答弁した。

### 町議会質問要旨

我那覇武氏 国営かんがい排水事業(地下ダム計画)がボーリング調査が行われただけで、棚上げ状態になっている。

譜久嶺弘幸課長 ○四年三月から棚上げ状態になっている。継続を求め、今後の対応を推進協議会の役員会に諮りたい。

我那覇氏 サトウキビ対策班などを設置してキビの増産を図れないか。

外間守吉町長 増産できない原因を突き止め、キビ一本にしほって論議すべきだ。対策班を立ち上げることも必要だと考えている。

我那覇氏 エビ養殖場の実績は。

東浜安伸課長 キロ単価が落ち込んでいるが、今年は生産量も前年を大幅に上回ると思う。数年内には赤字解消を見込んでいる。